

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K04457

研究課題名（和文）阮朝宮殿建築・太和殿の塗装技術

研究課題名（英文）Decorative Painting Technique Employed at Thai Hoa Dien, The Nguyen Dynasty Imperial Palace in Hue, Vietnam

研究代表者

齋藤 潮美（SAITO, Shiomi）

早稲田大学・理工学術院総合研究所（理工学研究所）・その他（招聘研究員）

研究者番号：40708749

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：ベトナム中部の都市フエは、フォンザン川の水系に、ベトナム最後の王朝、阮朝（1802-1945）の都城が形成され、歴史的建造物群は1993年ユネスコ世界遺産に登録された。宮殿建築の多くは木造で建築装飾に華麗な漆・彩色塗装技術がみられる一方、戦禍を被り建物を失った遺構もある。太和殿は嘉隆4年（1805）に創建後、移築や修理を経て現存する第一級の建築塗装史料である。本研究は早稲田大学中川武名誉教授が主導し、フエ遺跡保存センターを主なカウンターパートとした一連の「ヴェトナム・フエ阮朝王宮の復元的研究」を継承・発展し、文献記述、現地採取技術や科学分析などの比較を通じ、太和殿塗装技術の考察を試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

阮朝建築は多くが木造であり、高温多湿で過酷な自然環境下に加え、生物被害などにより、現存遺構の塗装塗膜は劣化が進行している。フエ遺跡保存センターは遺構への塗装修理を行う一方で、古材の保存に取り組んでおり、今後の修理や学術研究においても重要な意義を持つ。

歴史的建造物群保護の観点から遺構への保存修復とともに、阮朝王宮の造営を支えた宮殿の塗装設計方法や建築塗装生産組織・技術に関する研究を蓄積し、総合的な伝統建築技術体系に対する理解を深めることが望まれる。本研究は伝統塗装技術の分析を通じ、ベトナム、日本を中心としたアジアの文化遺産の宮殿建築漆塗装設計技術研究の発展に寄与する基礎的な研究を目標とする。

研究成果の概要（英文）：The city of Hue in Central Vietnam is home to a castle town built along the banks of the Huong Giang River system by Vietnam's last dynasty, the Nguyen Dynasty (1802-1945). Most of the palace architecture consists of wooden buildings displaying ornate lacquer and painting techniques, but there are also ruins of structures destroyed in the war. Thai Hoa Palace, constructed in 1805, has been relocated and restored, and today serves as a first-class historical reference to ancient architectural painting techniques.

This study continues and extends the series of reconstructive studies of the royal palace of Vietnam's Nguyen Dynasty led by Professor Emeritus Takeshi Nakagawa at Waseda University in cooperation with Hue Monuments Conservation Center as the principal counterpart. It attempts to shed light on the painting techniques applied to Thai Hoa Palace through literary examination, comparison of local painting techniques, scientific analyses, and other approaches.

研究分野：建築史・意匠

キーワード：ベトナム 阮朝 漆 塗装 伝統技術 宮殿建築 文化遺産 ユネスコ世界遺産

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

ベトナム中部の都市フエは、フォンザン川(香江)の水系に、ベトナム最後の王朝、阮朝(1802-1945)の都城が形成され、歴史的建造物群は「フエの建造物群」として1993年にベトナムで初めてのユネスコ世界文化遺産に登録された。

宮殿建築の多くは木造で建築装飾に華麗な漆・彩色塗装技術がみられる一方、戦禍を被り建物を失った遺構もある。

太和殿は嘉隆4年(1805)に建造後、移築や修理を経て、現存する第一級の建築塗装史料である。

早稲田大学中川武名誉教授が主導し、同学建築史研究室による、フエ王宮の文化遺産保存修復再生のための一連の研究は1990年代より開始し、フエ遺跡保存センターを主なカウンターパートとして進められた。本研究代表者らによって、宮殿建築の伝統塗装技術に関する研究が進められ、当該分野の学術的な研究論文が希少である中、学会発表や論文発表が行われた。

2. 研究の目的

太和殿には玉座が置かれ、阮朝期には即位式などの重要な儀礼が執り行われた。太和殿は皇城内で柱と扉の一部に古式文様が確認できる唯一の現存遺構である。太和殿は古材、修理材、古写真などが現存し、阮朝王朝期の最高水準の伝統的建築塗装技術を考察するうえで、最も重要な遺構の1つである。

本研究は、早稲田大学建築史研究室が行ってきた一連の「ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復原的研究」を継承・発展して行っている研究である。

これまでの研究成果を踏まえ、早稲田大学とフエ遺跡保存センターの国際学術共同調査の成果に基づき、太和殿の建築塗装技術に関する考察と、基礎的な研究資料の蓄積を目的とする。

3. 研究の方法

1) 文献史料にみられる記述の分析

先行研究を踏まえ、阮朝末期に編纂された漢字、字喃の表記法を用いた漢喃史料にみられる宮殿建築塗装、太和殿の塗装修理、阮朝期の船舶塗装に関する分析を行う。

ベトナム漆工技術に強い影響を与えた中国の明代に編纂された漆工技術書『髹飾録』、阮朝末期に訪越した日本人技術者が著した漆工技術調査書『安南の漆』、ベトナム近代漆工技法書『Kỹ Thuật Sơn Mài』などの記述を参照し、阮朝塗装技術の考察を行う。

2) フエの現存遺構の修理技能者から採取した塗装技術

フエの現存遺構の塗装修理に従事する技能者から採取した塗装技術に関する先行研究を整理する。

3) 塗膜の科学分析

先行研究を踏まえ、塗膜片試料と現在入手できる材料との比較は日本の分析機関に科学分析を委託して、バインダーなど古式材料に関する基礎資料を蓄積する。

4. 研究成果

文献史料には、社稷壇や南郊壇など祭祀にかかわる塗装の色彩には、黄色を用いる記述が確認できる。太和殿の塗装修理について、<漆油敷罩金色>は、塗装材料や技法に関する記述であると推定できる。

先行研究によると、阮朝成立後に、嘉隆帝(在位1802-1820)は全国に造船工場を設け、新造

や修理を行った。阮朝は、皇帝の巡幸や各公務などに応じて、船の型式などを定め、皇帝の船の装飾は漆塗で金箔か銀箔を施したのも用いられている。宮殿建築と船舶は、構造は違うが、木造塗装技術の比較参考例になると考える。

フエの現存遺構の修理技能者から採取した塗装技術では、生漆に顔料と油糧を混入し、透明度の高い漆を調合し、更に松脂を配合することもあることがわかった。

先行する太和殿扉に関する科学分析では、塗膜に漆に該当しないと思われる層が検出されたため、比較のために現在入手できる材料である固形の松脂に対して赤外分光分析を行ったところ、松脂由来の吸収と類似する部分が見られた。現時点では太和殿の伝統塗装材料には、漆、油などを用いた可能性が考えられる。

アジアの各地で産出される漆は、先史時代より用いられ、高度に発達したこの地域独自の文化を形成した。今後はベトナム漆技術に影響を与えた中国、日本、フランス、ベトナムの周辺国などとの比較分析を重ねていきたいと考えている。

<重要参考文献>

- 1 谷内治橘 著. 安南の漆, 交通展望社, 1943
- 2 Phạm Đức Cường: Kỹ Thuật Sơn Mài, Nhà Xuất Bản Văn Hóa, Hà Nội, 1982
- 3 阮朝期ベトナム (1802-1883 年段階) の造船業と船舶 / チャン・ドゥック・アイン・ソン 著 ; 西村昌也, 上田新也 訳, 岡本弘道 編. 船の文化からみた東アジア諸国の位相 : 近世期の琉球を中心とした地域間比較を通じて, 関西大学文化交渉学教育研究拠点, 2012.1, (周縁の文化交渉学シリーズ ; 5).
- 4 白井裕泰 編著. ベトナム・フエ城宮殿建築の修復と復原, 中央公論美術出版, 2016

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 齋藤潮美
2. 発表標題 太和殿扉の塗装技術
3. 学会等名 日本建築学会
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------